



KSKS

花の会ニュース

2026年1月号
no.207

編集人/ 社会福祉法人 花の会 広報委員会 連絡先/ 〒569-1042 高槻市南平台 3-29-9

TEL 072-692-2859 FAX 072-693-3603

★WEB <https://hananokai.info/>

★E-mail hana-net@minos.ocn.ne.jp



花の会 作品展より 『オムレツとレタスサラダ』 石光 京子 (共働舎花の会)

「花の会」と「遊びの文化」

謹賀新年 今年もよろしくお願いたします。

内容が分かりにくいとの指摘を受け、改善したいと思っています。身近なことを中心に話せればと考えました。

ふと思いついたのが「花の会」という場の初めて感じた「違和感」について。一般ではなかったのですが、この仕事から花の会を手伝うようになって感じたのは、時間の流れの緩やかさだった。当時は「ルーズ」としか感じられなかった過ごし方、皆さんはどのように感じられているのか。そのことは別に、当時の「支援者」という言葉もなかったが「メンバー」と「遊ぶ」雰囲気独特さに気付いた。端的に言うところ「一緒に遊ぶ」関係性だろうか。

横山泰彦という支援者を中心にスタッフがまとまっていた。横山は、以前に「高槻むくげの会」という地域在住の在日韓国・朝鮮人子弟の支援団体に活動していた。学校子ども会の様子は知らないが、地域子ども会が有り、夕なにみんなが集まってくる。塾みたいなことをするのかと思ったが、一応、教材の準備などもしていたように思う。市内3か所に子ども会があり、危なっかしい建物に集っていた。流行っていたのはレスリングの技の掛け合い。子どもの支援者も汗だくで格闘する。当然、力の差は歴然としていたが、手を抜かないところがむくげ流とのことだった。これは一例で、学業の補助というより、みんな、遊びに来ていた。それが、非日常であつたのかどうか、確認のしようもないが、地域の家庭も巻き込んでのどんちゃん騒ぎである。

その横山が花の会でも作業の合間にメンバーとの格闘や追つかけつこを実践する。何が花の会は「働く場」だとも見えた。メンバーの息遣い、必死さ加減。みんな大人なのだが、遊びに興じる場面が多々あつた。多分、横山がむくげの会で感じたことを花の会でもやっていたと思う。他方では働く場という触れ込みもあり、畑作業を(2反の農場で)やる時も、どこか遊びもありつつしんどい畑仕事に取り組んでいたように思う。しかし、訓練性、換金性がどうしても出てしまうのも、現場の辛さである。

遊びは、発達との関連で見られがちだが、「自発性」「非日常性」「自己目的性」といった共通の要素を持ち、遊びの多様性はよく知られている。花の会の当初の独特の世界観に、遊びがあつたことを思い返す。(やまだのかかし)

みんなの会 リーダーをがんばってます！

井村 優衣さん

井村 優衣さんのプロフィール

- 2017年4月、「共働舎花の会」利用開始。
- 2025年12月現在、「共働舎花の会」A班所属。
- 趣味は、プロ野球の応援、ぬいぐるみ収集。阪神タイガースの中野選手のファンだとか。



今回は、共働舎花の会に通所されている井村 優衣さんにお話を聞きました。

鹿子： 今年、「楽しかったこと」ベスト3を教えてください。

井村： 第3位は～「花の会の一泊研修旅行」です！和歌山に行った。パンダのいないアドベンチャーワールドに行った。



鹿子： パンダがいなくて残念でしたね！

井村： はい…。

鹿子： ご飯は、何が美味しかったです？



井村： もう、忘れたわ！

そして第2位は～「ハワイ！」

鹿子： うわ～、いいですね！誰と行ったんですか？

井村： 家族3人です。めっちゃ楽しかったです。

あっ、北海道にも野球の応援に行った！

鹿子： 仲良し家族ですね～。

井村： はい！

そして第1位は～「クリスマス会」！

鹿子： クリスマス会、何をするのが楽しみ？



井村： 徳永（ワーカー）さんと一緒に、司会をすることが楽しみ！

鹿子： （みんなの会の）リーダーさんだから司会をするんですね！

来年も、楽しいことがたくさんあるといいですね！



井村： はい！

鹿子： ところで井村さん、（みんなの会）共働舎花の会のリーダーさんになろうと思ったのはどうしてか、教えてもらえますか？

井村： 思いが…やりたい気持ちだったから。

鹿子： リーダーってどんなことをするの？

井村： リーダー会議・ランチ会議・ピープルファーストに参加。

鹿子： リーダーをやってみて、どんな気持ちですか？

井村： うれしい気持ち！！

鹿子： では、これからも頑張ってくださいね、応援します。

井村： はい！

鹿子： 共働舎花の会ではどんな作業をしているのか、教えてください。

井村： 販売活動と、屋上菜園（土ふるい）。屋上の野菜を販売に出します。今は、小松菜・大根・ブロッコ



リー・玉ねぎ・スナップえんどうを育てています。
春に収穫します！



鹿子： 楽しみですね！

これから「頑張りたいこと」、「やってみたいこと」ってありますか？例えば「はなみずきに行ってみたい！」とか…？

井村： ない！ 共働舎(花の会)で頑張りたい！

鹿子： 他に、やってみたいことはありますか？

井村： 今はとにかく、ファムさん※

と仲良くなりたいです。送迎車で花の会に着いて、迎えに来てくれたことがめっちゃめっちゃうれしくて！



※ファムさん…外国人雇用のベトナム人の新人ワーカーさんです

鹿子： ファムさんにも親切にいろいろと教えてあげてくださいね！

井村： はーい！！

~~~~~



## 編集後記

優衣さんは、療育園→幼稚園→支援学校と幼少期・学童期を過ごされたそうです。現在の優衣さんは、チャレンジ精神が旺盛でとってもがんばり屋さんの素敵な女性です。そして何より彼女の明るさは、生まれてから現在まで、ご家族の愛情をいっぱいを受けて共に歩んでこられたたまものなんだな…と感じています。

また、お父様は現在、第4共働舎花の会「こすもす」にてボランティアさんとしてご活躍されています。メンバー支援と生産活動の売り上げUP、両方に貢献するために試行錯誤を重ね、日々奮闘してくださっているとのこと。とってもありがたいことだと、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回のインタビューを終えて、彼女の「がんばりたい！」という真っすぐな気持ちに寄り添い応援していけるよう、私たち支援員も「がんばらないといけないな」という気持ちになりました。



（取材：共働舎花の会 鹿子 恵美）

## 小さい頃からの成長と変化

よしおか りえ  
**吉岡 利恵さん**

### 吉岡 利恵さんのプロフィール

- 玄貴さん（「あさがおクラブ」を利用）と妹2人の3児のお母様。

### 吉岡 玄貴さんのプロフィール

- 玄貴さんは、地域の小学校を卒業後は高槻支援学校に通い、現在高等部2年生。
- 放課後等デイサービスは、2015年に「あじさいクラブ」を利用され、その後「あさがおクラブ」ができたと同時に「あさがおクラブ」に移り、現在に至る。
- 放課後等デイサービスを利用して10年が経過。
- ドライブするのが大好きです。



その後は、1～2単語は発していたものの、ぐっと伸びたのは、YouTubeを見だしてそれを真似するようになってからですね。今はYouTubeの真似をしてよく喋っていて、好きな『警察24時』などを見ています。



今回は、あさがおクラブをご利用中の吉岡 玄貴さんのお母様にお話を伺いました。

**Q** 幼少期からどんな所に通われていたのですか？

**吉岡：** 1歳半検診で発語が遅れている（発語が無い）と言われ、パンダ教室を紹介されてその後は、めばえ教室、うの花療育園と順に通い、地域の小学校へと進み、中学校からは高槻支援学校へ通っています。

\*パンダ教室：高槻市が主催する子育て支援プログラム。発達や発語の遅れ、行動面で不安がある方向け。遊びを通した関わりと専門家による相談等が行われる。

\*めばえ教室：言語聴覚士などが個別療育や保護者相談等が行われる。

\*うの花療育園：高槻市にお住まいのより丁寧な関わりが必要とされる方が毎日元気に通う所。

**Q** 発語はいつ頃からだったでしょうか？

**吉岡：** きっかけは、うの花療育園で扉を開けてほしくて「開けて」と言うようになったのが最初の発語でした。



**Q** 幼少期の玄貴さんはどんな様子でしたか？

**吉岡：** 今とは違って、みんなの輪の中に入るのが苦手で一人で過ごしていて、教室に入ることができなかったため、給食室前の廊下や園庭で過ごしていた。誰もいない状況であれば、入れるようになるまで1年かかりました。その後は入ることができるようになったのですが、周りの声や泣き声が苦手だったことが原因でした。

**Q** 子育てでどんな悩みがありましたか？

**吉岡：** 発語がなかったことや、子どもなのでしてはいけないことをしたり、また兄妹との関係性。家の中にいると、いけないことをするのでどうしても怒ってしまうため、怒らないように1～2時間散歩に行っていた時期もありました。



**Q** いろいろなことをどのように乗り越えていかれましたか？

**吉岡：** 調子が崩れることがあっても普段は落ち着い

ているので、今は「時間が経てばなんとかなるだろう」と思えるようになりました。また学校に行った時やバス停で送迎のバスを待っている時に他の保護者とおしゃべりをして、「自分だけじゃない」と思うことができ、また情報を共有することができ、乗り越えることができたと思います。



**Q** 小学校時代は、どうでしたか？

**吉岡：** 最初の1～2年は良かったが3～4年目くらいからしんどくなって、支援級で過ごしていました。先生はみんな良い方でしたが、勉強は難しくて、じっと座っているのが苦手だったこともあり、苦戦していました。

雨が苦手で月曜日に雨が降ると学校に行くことができなかったの、家で一緒に過ごしていたこともあり、仕事をするのは難しい状況でした。

現在は、学校も休むことがなくなったので、平日はパートに行くことができています。お友達でまってくれる子はいたが、自分からいくタイプではなかったので、受け身ではありました。

**Q** 放課後等デイサービスを利用するきっかけは？

**吉岡：** うの花(療育園)を卒業後の行き先として、うの花から放課後等デイサービスの事業所の説明と案内をしていただき、探し始めました。その年に「さくらクラブ」がオープンしたので、その影響であじさいクラブが空いているのではと思い、問い合わせ利用となりました。また、保護者同士で事業所についてなど、情報交換をしていました。あさがおクラブは家からも近く様子も見えるので、安心感もありますね。

**Q** 週末はどのように過ごされていますか？

**吉岡：** 昔は週末におばあちゃんと一緒に家族で水族館や動物園などよく出掛けていて、最近では家族で万博に行き、電車やマイカーなどいろいろなパターンで行って楽しみました。現在は、土曜も放課後等デイサービスを利用して、妹たちも大きくなり、みんなで出掛けることも少なくなってきましたが、本人は外食が楽しみです。



**吉岡：** 高槻支援学校を卒業後は、生活介護事業所へ、そしてグループホームに入れたらと思っています。大きくなれば親から離れていくのは障害があってもなくてもみんなそうなので。

現在実習などを行っていますが、卒業の年の事業所の空きの状況で行ける所が限られてしまうので、選択肢はあまり多くないのが現実ですね。花の会ならなんとかしてくれると期待しています(笑)。

★★★ 玄貴さんが初めて放課後等デイサービスを利用された時の様子とその後の変化 ★★★

●利用開始初期…

「ここは何？僕は何をやるの？」といった感じで周りの様子を観察され、話しかけても1語文の返答のみで寡黙な感じでした。

●半年後…

職員や友達のことがわかってきて、気の合う友達と過ごしたり、好きなことや好きな職員と過ごすようになってくる。

●それ以降…

自分のペース、気持ちを大事に過ごし、納得がいけないことがあるとしっかり主張されるようになる。



## 編集後記

私が玄貴さんと出会ったのは、あさがおクラブからで4年ほど前になります。最初に驚かされたのは、道に詳しくて住宅街の中の道や一度行ったところはすぐに覚えていること。また出会った頃は、玄貴さんも落ち着いていたので、今回幼少期などの話を聞いて、昔とは大きく変わっていて成長されているのだと感じました。

あと1年ちょっとであさがおクラブも卒業となりますが、レスパイトも利用されていて繋がりは残りますので、これからも玄貴さんの成長を見続けたいけると嬉しいです。



**Q** 卒業後はどのように考えられていますか？

(取材：あさがおクラブ 山口 昌亮)

## 職員の声 支援への思い

おかもと まこと  
岡本 誠さん

### 岡本 誠さんのプロフィール



2024年9月から、派遣社員としてレスパイトで勤務されてきました。  
2025年4月より直接雇用に転換し、その後もレスパイトの職員として活躍されています。



趣味は麻雀とパチンコ。今はそんなにされていないとか。



お休みの日はご家族とペットのわんちゃん達と安満遺跡公園のドッグランに行かれることが多いそうです。



今回は、これまでさまざまな職種を経験してきたという岡本 誠さんに、いろいろな仕事をされてきたからこそその視点や、短期入所事業部(レスパイト)でのお仕事について、お話を伺いました。

**Q** 2024年からレスパイトで勤務されていると聞きました。その前から、福祉系の仕事をされていたんですか。

**岡本：** いえ、まったく。僕自身はもう今50歳なんですけど、ざっと言うと美容師から始まって、アパレル関係もやって、ホテルでも働いて…、あと飲食関係、清掃・ビルメンテナンス…、細かくいえばもっとあるんですけど。もういろんなことをやってきました。全体的には接客サービス系が多いですね。



**Q** そこから障害福祉、なおかつ短期入所のお仕事を選ばれたのはどうしてですか。

**岡本：** 正直、障害福祉をしたかったというわけではないんです。元々は京都の実家に住んでたんですけど、諸事情で高槻に引っ越すことになって。高槻で何か仕事を見つけないと…というところから。

僕もこの年になって、どの職業ができるかなってというのは考えていたんですけど、僕の母がボランティアとか福祉の仕事をもう20年くらいずっとし

てたんですね。そういうのが頭の中に少しあって、福祉っていうのも選択肢に入れて探していた中で、派遣の求人が出ていたから「まあとりあえず、一回やってみようか」という流れで入らせていただきました。

**Q** 実際に入ってみて、いかがでしたか。

**岡本：** 僕もこの職種をまったく知らないわけではなかったのですが、業務内容は結構イメージ通りだったかな…。レスパイトは人間関係も良くて働きやすい環境だったので、すっと入りやすかったです。先輩方からも仕事を丁寧に教えていただけましたので。だから派遣からの切り替えりの話をいただいた時に、ここで骨をうずめようかな、と。

**Q** レスパイトで働いていて、印象に残っていることはありますか。

**岡本：** メンバーとの関わりはいつも印象的というか、やっぱり楽しいですね。

メンバーそれぞれ個性や自分の意志があって、僕もみんなとコミュニケーションを取るようにしているんですけど、すぐに僕を受け入れてくれる方もいれば、僕という初めての人間に興味はあるんだけどなかなか近寄ってくれない方もいて…、いろんな人がいて、その中でそれぞれ関係性を築いていくことは楽しいです。

**Q** なかなか近づいてくれない方とは、どう距離を縮めてこられましたか。

**岡本：**相手の表情とかをできるだけ読み取って、今話しかけるべきではない人には焦らずチャンス伺うというか。



そんなんをじわじわやってたら、例えば本人が楽しんでるタイミングとかで、突然名前と呼ばれたりして。そういう時に、「あ、なんか少し認められたのかな」って思えました。

働いて一年ちょっと経って、今レスバイトをご利用されているメンバーとはようやくみんなと仲良く接せられるというか、距離感が縮められたかなと思います。

**Q** 支援でどのようなことを大切にされていますか。

**岡本：**日頃から心がけてるのは、予定通り進まなくても「待つ」ということですかね。

例えば日々の声掛けで、「もう家に帰りますよ」とか、「ご飯ですよ」とか声掛けしますよね。そういう声掛けに対して、すぐ動ける人・動けない人っているんです。いつも動けているメンバーでも、「なんか今日は無理」ってなっちゃう人もいます。この作業をここまでやらないと次には絶対にいけないという人もいます。

そりゃあすぐ動いてくれたら職員としてはありがたいんですけど、それができない時もある、ということを前提に考えておくことが大事かなと思ってます。

やっぱりメンバーも気持ちと身体の準備というか、職員が言っていることを理解してるけど、なかなか動けない時があるっていうのはよく分かります。もちろんずっと待ってるだけではあかん場面もあるんですけど。待つにしても動いてもらうように働きかけるにしても、こちらのメンタルに余裕を持っておくことが大事かなかなと思ってます。

**Q** 岡本さんにとっての仕事とは、どういうものでしょうか。

**岡本：**まあ結局は生きていくための手段ですよ。お金は稼がないといけないし。

僕が入職する時、橋本さん



に面接してもらったんですね。その時も、「なんでこの職業を選んだんですか？」って質問されたんです。で、もう正直に、「年いってからでも働けるのが福祉なのかなって思って応募してみました」って言ったら、「僕も一緒です」って言ってもらえたんです。

やっぱり50から仕事を見つけるっていうのは、実際なかなかハードルが高いんですね。僕もここに行き着くまでに二社ぐらい面接で落ちていますし。

そんな中で花の会では、「一緒に働きましょう」と言ってくれた。それならしっかりがんばりたいなという気持ちです。もちろん生きるためにお金を稼いでいきたいんだけど、そこにやり甲斐がついてきたらいいかなと思っています。

**Q** 最後に、今後の目標を教えてください。

**岡本：**そうですね…、この年までにいろんな職業を経て、やり切っちゃったというか、出世とか役職に対しての熱は、正直もう冷めちゃってるんですよ。だからこそ現場の職員として、レスバイトを使うみんなと向き合いながら、距離を縮めていきたいな、っていうのが目標ですかね。

あと、レスバイトにも一人30代の若手の職員さんがいるんですけど、そういう若手の職員さんたちのバックアップができる存在になれるといいのかな、と思っています。そういう環境づくりも大切な、と。



## 編集後記

異業種から福祉業界に転職されたと聞き、戸惑うことも多かったのでは、と思いながらお話を伺っていたのですが、いろいろなことを受け入れ、「予定通りいかなくても、まあそういうこともある」という姿勢で勤務されていることに、私の方が驚かされました。

その自然体な雰囲気を持っていらっしゃるからこそ、日々変わるレスバイトのメンバーともじっくり距離を縮めることができるのだろうなと実感したインタビューでした。



（取材：田淵 彩子）



## 日中活動支援の報告 生活介護

### 第58回 花の会バザー を開催しました！

2025年11月9日(日)に、第58回花の会バザーを開催しました。当日は500名ほどの来場がありました。

今回も、日中部門だけでなく、家族会の皆様、就労、児童やグループホームのワーカー、地域のボランティアの方にも協力をいただき、無事に開催することができました。

春のバザーは、前日の準備の時に雨が降り、レイアウトを急遽変更するなどしました。なんと…今回のバザーは、当日が雨でした。雨の中ですが、私たちの予想を超える来場がありました。雨天にもかかわらずご来場いただき、ありがとうございました。

バザーの目標である売り上げ100万円以上を達成できました！バザーの売り上げはメンバーの工賃

になります。今後もバザーを地域の皆様との貴重な交流の機会として、楽しんで参加していただけるように試行錯誤していきます。物品のご提供もいつでもお待ちしております。引き続き、ご協力よろしくお願いいたします。

物品提供の連絡先:072-697-7033 第2共働舎花の会



雑貨売り場



募金活動をするメンバー

(第2共働舎花の会 渡邊 朋幸)

### new「たんぽぽ亭」がオープンしました！

12月1日、新しいたんぽぽ亭が芥川町にオープンしました。

開設にあたり多額のご寄付をいただいた花の会後援会、家族会の皆様、工事に携わって下さった方、準備を手伝って下さった方に深く感謝申し上げます。毎日、ワクワク感と同じぐらいドキドキしながら新しいお店作りをしています。

約2か月お休みをいただいた弁当販売ですが、引き続きご注文いただいています。何より「待ってたよ。」「楽しみにしているね。」と声をかけてくださるお客様に感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ慣れない環境の中での活動に戸惑うメンバーとワーカーですが、毎日バタバタしながらお弁当作り・カフェ・ランチ作りを限られた人数で頑張っています。カフェ担当メンバーのNさん、「厨房はまかせとき！」とメンバーHさん、配達の仕事に励むメンバーのS

さんとMさん。毎日フル稼働で、あっという間に1日が終わっていきます。ランチを食べに来てくださるお客様の「美味しかったよ。」「また来ます。」と声をかけられる度、笑顔で「ありがとうございます。」と声のトーンもあがってしまいます。

『ランチやってます！』ピンクののぼりを目印に、楽しい時間をたんぽぽ亭で過ごしませんか？

カフェでは、コーヒー・紅茶・ほうじ茶・リンゴジュースを用意しています。皆様のお越しをメンバー・職員一同お待ちしております。



たんぽぽ亭紹介HP

(たんぽぽ亭 一安 徳美)



## 児童通所支援の報告

### 2025年度 定例会(合同懇談会)の報告

12月上旬、各事業所において、毎年恒例となっている定例会(合同懇談会)を実施しました。

今年度も昨年度に引き続き、インフルエンザなどの感染症の流行や地域行事との重なりもあり、参加される方が少なくなりましたが、落ち着いた雰囲気の中で一人ひとりの思いに声に耳を傾ける時間を作ることができました。各事業所ではさまざまな内容を話し合いました。進学や就労、その後の生活の場といった将来に関する話題をはじめ、福祉制度や現在利用している事業、相談支援事業所の役割などについて、率直な意見交換が行われました。日々の生活の中で感じている不安や疑問を共有し合うことで、「話



をする」「つながる」こと自体が安心につながる場となった事業所、スライドショーを用いて一年間の活動を振り返る事業所もありました。写真を通して日々の様子を共有することで、事業所での姿と家庭での様子を重ね合わせながら理

解を深める機会となりました。

ゆっくりと対話を重ねることができたことはよかったのですが、もう少し参加いただけるよう工夫をしていかないと…と職員間でも意見がありました。

今後も引き続き、ご家族同士、そして職員も交えながら、安心して話し合える機会を大切にしていきます。

(さくらクラブ 平田 昌史)

### 「高校生がつくるふれあい冬まつり」の報告

寒さ厳しい1月10日(土)、児童部門では年明け最初の対外的な行事として、恒例の「高校生がつくるふれあい冬まつり」に参加しました。このイベントは、高校生が中心となって企画・運営を行っており、障がい者福祉センター(ゆう・あいセンター)を会場に、多くの方が来場される貴重な交流の場となっています。児童部門は昨年度に引き続き参加し、会場出入口付近で「くじ引き」を担当しました。

当日は、近隣の野見神社で十日戎が開催されていたこともあり、冬まつりの開催を知らずに立ち寄られた方も多く、会場は終始にぎやかな雰囲気に包まれていました。1回100円のくじ引きには、小さなお子さんから高校生、大人の方まで、「年初めの運試し」として笑顔でチャレンジされる姿が多く、やりとりを通した何気ない会話や笑い声が生まれ、自然な交流が広がっていききました。また、高校生ボランティアの皆

さんが積極的に声をかけてくださり、温かく和やかな雰囲気の中で、来場者と一緒に楽しい時間を過ごすことができました。ゆるく世代や立場を超えた関わりが生まれる貴重な時間を持てました。企画運営の方、ご来場いただいた方、本当にありがとうございました。



(さくらクラブ 平田 昌史)

### 「合同作品展(桃園ギャラリー)」のお知らせ

2月19日(木)～3月4日(水)の期間、桃園ギャラリー(高槻市役所総合センター1階エントランス:高槻市桃園町2-1)にて作品を展示します。

各事業所でそれぞれテーマを決め、みんなで協力して作品作りをしています。あじさいクラブは『世界の中の富士山』、冬休み中にたくさん山を作りました！さくらクラブは絵本『はらぺこあおむし』、ちょうちょ

はどう仕上がる？ あさがおクラブは『水族館』、お魚は何匹いるかな???

お時間がありましたら、是非各クラブの楽しい世界を見に来て下さい！書初めも展示します！

(さくらクラブ 山下 由香)



## 地域生活支援の報告

### 津之江北町新規グループホーム建設着工のお知らせ

～新たな生活の拠点づくりが始まりました～

フラワーホームでは、津之江北町にて新しいグループホームの建設を進めております。

9月に建設業者の入札を行い、これまで「大和」「梶原」の建設工事をしていただいた、信頼のある建設会社に施工をお願いすることになりました。昨今の物価高騰の影響が懸念されていましたが、幸いにも予想を下回る価格で契約ができ、その後、社会福祉施設等施設整備費補助金の交付が決定いたしました。また、この度の建設に際し、「新しいグループホームの建設費として役立ててほしい」とご寄附を賜りました。温かいお志に従い、建設費用の一部として大切に活用させていただきます。この場を借りて深く御礼申し上げます。

10月より現地での工事が着々と進んでおります。今回の整備は、老朽化した「フラワーホーム」「ぼぱい」「さくら」の移転に加え、新たに男性用のホームを開設いたします。これに伴い、「さくら」の定員が4名から5名に増え、新ホームも5名定員になるため6名の

新規入居者を募集する運びとなりました。定例会でご家族の皆様にご意見をいただきながら、外装を決定いたしました。現場会議には企画担当や世話人も参加し、現場の声を反映させた使い勝手の良い住まいづくりを進めています。

このニュースがお手元に届く頃は、入居者募集と津之江北町の見学の準備に取り掛かっていると思います。環境の変化による不安を最小限に抑え、わくわくした気持ちで新生活を迎えられるよう、今後もメンバー、ご家族の皆様と共に一歩ずつ丁寧に進めてまいります。引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。



(フラワーホーム 徳野 裕季)

はいびすかす

### 世話人からガイドヘルパーへ転職しての思い

私はこれまで、グループホームの世話人として、メンバーの日常生活を支える仕事に携わってきました。食事の準備や掃除、服薬の声かけ、体調確認など、毎日の暮らしを安全に、そして安心して送っていただくことを第一に考え、一人ひとりに寄り添う支援を心がけてきました。メンバーが落ち着いた表情で過ごされている姿を見ることが「ありがとう」と感謝の言葉をいただくことが、日々の励みとなっていました。



世話人として働く中で、メンバーが外出の予定を楽しみにされている様子や、買い物や散歩から戻られた際に見せる生き生きとした表情に触れる機会が多かったです。

外の空気を感じ、人と関わり、社会とつながる時間が、メンバーの心の充実につながっていることを実感し、生活の場を支えるだけでなく、外出そのものを支援する仕事を知り、声をかけていただく機会があ

り、現在に至っています。

ガイドヘルパー(サービス提供責任者)として働き始めてからは、移動時の安全確保や周囲の状況判断など、これまで以上に責任の重さを感じる場面も増えました。しかし同時に、利用者の方が自分で行き先を選び、「行ってみたい」「やってみたい」という気持ちを実現していく姿に寄り添えることに、大きなやりがいを感じています。グループホームの世話人として培ってきた観察力や、相手の気持ちを汲み取る姿勢は、ガイドヘルパーの仕事にも生かされています。

これからも利用者の方一人ひとりの思いを大切に、安心して外出を楽しんでいただけるよう、外出中の何気ない会話を通じて信頼関係を深め、不安や緊張を和らげることができたらと思っています。その人らしい外出や社会参加を支えられるよう、日々学びを重ねていきます。

(サポートセンターはいびすかす 赤松 サオリ)



## 就労相談支援の報告

### ～ 新入職員を紹介します ～



ワークたんぽぽ 田中 勇気さん

昨年10月に入職いたしました。7歳の娘と5歳の息子がいます。休みの日には近くの公園などに遊びに行っています。

以前は介護施設で12年ほど介護職をしていました。祖父の介助がきっかけです。

勤めていけばいくほど理想と現実で無力感を感じ、ご利用者様からいただく感謝の言葉さえも辛くなってしまいました。それでも人を助けたい！人の力になりたい！と思っていたところ、ご縁があり花の会でお世話になることになりました。分からないこと

だらけですが、施設長や先輩方から学び日々成長していけたらと思います。



就労支援センターフォルツァ

平野 美幸さん

はじめまして。昨年10月に入職いたしました。

前職はクリニック受付、保育士として勤務をしておりました。就労支援という世界は全く未経験で、知らない専門用語に戸惑うばかりですが、先輩の方々に丁寧に教えていただきながら、現在はメンバーとのコミュニケーションを重視して携わらせていただいています。まだまだ分からないことだらけ

ですが、日々笑顔で頑張っていきたいと思っています。



### 就 ポ ツ

### 『はたらくきっかけ就労支援セミナー』の報告

2025年11月29日(土)14時から16時まで、クロスパル高槻（総合市民交流センター）にて、働いていない今の状態から働くための一歩を踏み出したい方やそのご家族・関係者を対象に、「はたらくきっかけ就労支援セミナー」が開催されました。このイベントは、高槻市くらしごとセンター、三島地域若者サポートステーションの共催で、高槻市社会福祉協議会と高槻市障がい者就業・生活支援センター(就ポツ)が協力として参加しました。

第1部では、各支援機関の紹介と当事者による体験談発表がありました。体験談発表では、現在就労中の若者サポートステーション利用者1名と、就労支援センターフォルツァで訓練中のメンバー1名がインタ



ビュー形式でお話をしてくださいました。両名とも、さまざまな葛藤やうまくいかなかった体験を乗り越え、就労や訓練などに踏み出した経緯・心情を丁寧に語っていただき、支援者としても励みになるような内容でした。

第2部では、当事者やご家族の方の個別相談会を行いました。

このセミナーは、体験談発表をはじめ、働くことや社会に出ることに不安を抱えておられる方にとって力をもらえるような素敵なイベントです。来年度は、より良い取り組みとするため、企画内容の検討を進めるとともに、広報にも力を入れ、参加につながりやすい形を考えていこうと思います。

（高槻市障がい者就業・生活支援センター 橋口 正子）



## 法人の報告



あけまして おめでとうございます



花の会後援会 会長 上田 充孝

日頃より後援会活動にご支援・協力を賜り、ありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

さて、お父さんの会の活動も、活動メンバーの不幸や療養中の方がいてメンバー不足で、燻製作りも不本意ながら縮小しなければならなくなり、活動は低調でした。

また、会員の皆様にご協力をいただいています一円玉などの両替進捗状況は、残り5円玉280枚（計1,400円）、今迄の累計166,161円の両替に協力

をいただきました。誠にありがとうございました。

今年こそは、役員会を早い時点に開催し役員のお力をお借りして新しい資金集めの取り組み、会員の親睦を図るための催しなどの検討を開始したいと思っています。

役員一同頑張りますので何卒、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 「花の会 作品展」を開催しました

2025年12月14日(日)・15日(月)の2日間、久しぶりに「花の会作品展」を開催しました。前回はい

つ開催したか覚えておられる方がいるでしょうか？過去の花の会ニュースをひっくり返し調べてみましたが、第11回花の会作品展を2020年12月22日～2021年1月4日、えきちかギャラリー（市民ギャラリー）での開催が直近で、近年開催していたアクトアモレ（平和堂）ではなく、コロナ禍ならではの「展示のみ」での取り組みとなり、その後中断を経て今回、第12回目の実施となりました。

花の会の事業規模、福祉を取り巻く環境、制度等々…さまざまな点において変化がありましたが、約5年ぶりの「作品展」開催でこちらは原点回帰。メンバーの創作活動の発表機会、地域との交流を目的に全108点の展示と、物品販売コーナー、アピールブースを設け、取り組みました。今回は特定の部署で担当するのではなく、法人部署を横断する職員陣で運営することになり、来場の方と、ご家族とメンバーの方と共に新たなつながりが生まれました。人と人のふれあいやつながりを通じて、花の会の理念「共に生きる」メッセージの発信ができ

ればいいかな…と感じました。

今回の実施にあたり、多くの方に支えられ、無事に開催することができました。ご協力いただいた皆様、そして足を運んでくださった皆様、ありがとうございました。



（さくらクラブ 平田 昌史）

## お 礼

大阪府薬剤師会から 2025 年末に薬箱の寄贈がありました。

たくさん常備薬などが入っていました。大切に使用させていただきます。

（業務執行理事 成瀬 修）

